

2009 年度の北大小児科年報の発刊にあたって

2009 年度の北大小児科年報をお届けいたします。どうぞ北大小児科とその関連病院で働く仲間の活躍をご覧下さい。

この年報の発刊も今回で 6 回目となります。毎年の作業ですが改めて年報制作の意義を考えてみます。年報制作の目的は幾つもあげられると思いますが、あえて最も重要なものを一つ挙げると、自分の一年、教室の一年、それぞれの所属する病院の一年を振り返るきっかけにする事だと思えます。どうぞ皆さんそれぞれの一年を再度振り返って、一年の反省、明日への活力としてください。これでお手元には 6 年分の北大小児科年報がそろった事になります。時間がありましたら 2009 年度のものだけではなく、過去のものにも目を通していただけたらと思えます。希望的に言えば少しずつつかもせませんが北大小児科が発展している様子をご覧になれると信じております。

今年は北大から初のノーベル賞受賞者が誕生しました。後輩として非常にうれしく、同じ北大関係者として大変誇りに思いました。この事に比べると我々の努力がまだまだ足りない事は明白ですが、この年報が毎年充実していき、将来の後輩たちが誇りに思えるようなものへと発展していく事を信じたいと思えます。私自身の内容も年々充実したものにするよう努力したいと思えます。

北海道大学大学院医学研究科 医学専攻
生殖・発達医学講座 小児科学分野 教授 有賀 正